

弔 辞

謹んで、神奈川大学教授

故吉田 威先生の御霊に申し上げます。

先生の余りにも早すぎる御逝去を知り、

経済学部教授会一同は、深い悲しみに包まれております。

ここに教授会を代表し、御別れの言葉を述べさせていただきます。

吉田先生は、一九三六年（昭和十一年）十月十九日、新潟県長岡市にお生まれになりました。長岡商業高等学校を経て、五八年四月、一橋大学商学部に入學、同学部を経て、一橋大学院商学研究科経営学及会計学専攻修士課程に進まれ、飯野利夫先生の下で薫陶を受け、六九年三月、博士課程を修了されました。

先生は、博士課程三年次在籍のまま、一九六八年四月、神奈川大学経済学部助手となり、六九年四月専任講師に昇任、会計学を担当されました。七一年四月助教に昇任、七七年四月教授に昇任、経済学部で財務諸表論、大学院経済学研究科で会計学特講を担当されました。

修士論文「期間利潤の収支的性格」を出発点とする吉田先生の会計学研究は、先生御自身の言葉が説明しているように、「新古の学説の研究の積み重ねによって自らの学説をだんだんと形づくって行く」という学風のもとに進められました。緻密な学説批判にもとづく吉田先生の会計学研究は、地味ではあるが、厳格で堅固な論理に貫かれており、

わたしたち学徒が範とすべき性格を有しておりました。

吉田先生は、学部と大学院における学生の指導に力を尽くされ、後進の育成のために努力されました。吉田ゼミナールは、とりわけ厳しいゼミナールとして知られ、先生の御指導の下、幾多の優れた人材が世に送りだされました。吉田先生はまた、経済学部における経営学・会計学部門の中心として、その教育研究体制を建設するという重い使命を担っておりまして。さらに、経済学科主任として、学部長をたすけ、経済学部の充実と発展のために尽くされました。

これだけでも大変であるのに、吉田さんは、大学全体のために、激職である学生部長、入試センター所長をつとめたのです。この三、四年来の吉田さんは、かなりご無理な活動をなされていたのではないかと思います。このことが命を縮めた原因ではないかと思うとき、友人として、強く忠告しなかったことが、悔やまれてなりません。

未完の吉田会計学を想うとき、

愛する奥様と御子息「理」君を、この世に残して去っていった吉田さんを想うとき、申すべき言葉もありません。

吉田さんとの二十年におよぶ御厚誼に感謝するとともに、在りし日の先生の御功績をたたえ、弔辞といたします。

一九九〇年十一月十三日

神奈川大学経済学部長 中村 平 八

〔日付、役職名は当時〕